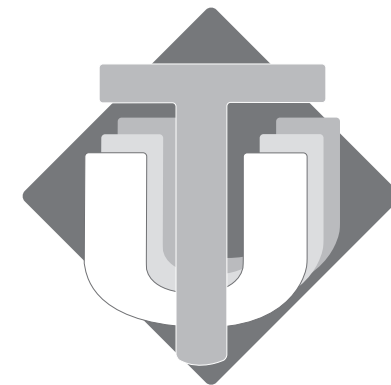




〈編集〉

徳島大学サマープログラム等実施委員会

*Summer Program Organizing Committee
Tokushima University*

巻 頭 言

2017（平成29）年度は3部局において徳島大学サマープログラム・サマースクールを開催し、無事成功裡に終了することができました。本事業を連携・調整する立場にあるサマープログラム等実施委員会委員長として、各部局において本事業を企画・実施頂いた担当の教職員の皆様、参加された大学院生・学部学生の皆様には、まずもって敬意を表しお礼を申し上げます。

徳島大学サマープログラム・サマースクールは、海外協定校等から夏休みを利用して学生・教員を招聘し、徳島での短期滞在を通じて各部局において実施されている特色ある教育研究の取り組みや地方都市、徳島の魅力を紹介し、将来の留学先としての徳島大学をアピールすることを目的にしています。同時に本学の学生にも参加を呼びかけ、在学生のグローバル化、キャンパスのグローバル化も目指しています。

徳島大学では、2007（平成19）年度、大学院先端技術科学教育部 国際連携教育開発センターの主催により最初のサマースクールが開催されました。翌2008（平成20）年、本学は文部科学省による「大学教育の国際化加速プログラム」の一つ、「国際共同・連携支援」事業に採択されました。文部科学省支援の下、同年、大学院ヘルスバイオサイエンス研究部とソシオテクノサイエンス研究部の主催による2コースのサマープログラム・サマースクールが開催されました。2012（平成24）年から国際センターおよび総合科学部サマースクールが実施されるようになりました。この間、2010（平成22）年には国際センター主導により、中国大連理工大学日本語教員研修コースと中国大連理工大学ソフトウェア学院学生日本文化体験・IT技術研修コースが実施されています。また、これらサマープログラム・サマースクールの事務は当初より国際課が中心となり、国際連携教育開発センター事務、各部局事務の協力を得てきました。

2012（平成24）年度にサマープログラム等実施委員会が設置され、以後、本事業は全学的に取り組み、実施されるようになりました。2017（平成29）年度の徳島大学サマープログラム・サマースクールは本報告書にまとめられているとおり、海外からの学生や引率教員、本学の学生を合わせ、約160人が参加しました。今後、本事業をさらに魅力的なものにするとともに、その成果が現れ、海外からの留学希望者が増加することが期待されます。また、本学の日本人学生の海外留学意欲が向上することも望めます。そして本事業が徳島大学のグローバル化教育の推進に少しでも役立てば関係者にとって望外の喜びとするところです。

最後に本年度のサマープログラム・サマースクールの実施にご尽力を賜った各部局の教員各位、事務職員の方々に深く感謝申し上げます。

平成30年3月
サマープログラム等実施委員会委員長
金 成海

内 容

1	サマープログラム2017	1
2. 1	総合科学部サマープログラム.....	5
2.1.1	目的.....	7
2.1.2	日程.....	8
2.1.3	講義概要.....	11
2.1.4	エクサカーション	12
2.1.5	修了証書.....	13
2.1.6	アンケート集計結果.....	15
2.1.7	成果報告.....	18
2. 2	先端技術科学教育部サマースクール.....	19
2.2.1	目的.....	21
2.2.2	日程.....	21
2.2.3	講義概要.....	24
2.2.4	エクサカーション	25
2.2.5	修了証書.....	26
2.2.6	アンケート集計結果.....	27
2.2.7	成果報告.....	29
2. 3	国際センターサマースクール「徳島であおう！」	31
2.3.1	目的.....	33
2.3.2	日程.....	33
2.3.3	講義・活動概要.....	36
2.3.4	エクサカーション	37
2.3.5	修了証書.....	39

2.3.6	アンケート集計結果.....	40
2.3.7	成果報告.....	47
3	総括	49
4	今後の課題とまとめ	50
5	担当者一覧.....	55
	サマースクールTシャツ	57

1 サマープログラム2017

1. 1 サマープログラムの目的

- (1) 徳島大学を海外にアピールし、海外から見た本学の価値を高める
- (2) 学術交流協定校との関係を強化する
- (3) 将来の優秀な本学留学生確保につなげる
- (4) 徳島および日本を知ってもらい、徳島・日本を身近に感じてもらう
- (5) 徳島大学の教員、職員、学生の国際化を図る
- (6) 英語による授業を拡充する

1. 2 沿革

(1) 2008 (H20) 年度

6月 文部科学省「平成20年度大学教育の国際化加速プログラム（国際共同・連携支援；交流プログラム開発型）」に「英語力を基盤とする新国際化教育プログラム―サマープログラムと短期海外派遣による国際相互交流の推進―」が採択された。

8月「サマープログラム2008」として2コースを実施した。

- ① ソシオテクノサイエンスコース（常三島キャンパス）
- ② ヘルスバイオサイエンスコース（蔵本キャンパス）

8月～2009 (H21) 年3月の間に「短期学生派遣プログラム」として3プログラムを実施した。

- ① 別研究プログラム
- ② リサーチプログラム
- ③ 短期語学研修プログラム

(2) 2009 (H21) 年度

8月「サマープログラム2009」として2コースを実施した。

- ① ソシオテクノサイエンスコース（常三島キャンパス）
- ② ヘルスバイオサイエンスコース（蔵本キャンパス）

8月～12月の間に「短期学生派遣プログラム」として3プログラムを実施した。

- ① 特別研究プログラム
- ② サマーリサーチプログラム

③ 短期語学研修プログラム

(3) 2010 (H22) 年度

8月「サマープログラム 2010」として4コースを実施した。

- ① ソシオテクノサイエンスコース (常三島キャンパス)
- ② ヘルスバイオサイエンスコース (蔵本キャンパス)
- ③ 中国大連理工大学日本語教員研修コース (新蔵地区・常三島キャンパス)
- ④ 中国大連理工大学ソフトウェア学院学生日本文化体験・IT技術研修コース (常三島キャンパス)

(4) 2011 (H23) 年度

7月～8月の間に「サマープログラム 2011」として2コースを実施した。

- ① ソシオテクノサイエンスコース (常三島キャンパス)
- ② ヘルスバイオサイエンスコース (蔵本キャンパス)

(5) 2012 (H24) 年度

6月～8月の間に4コースを実施した。

- ① 総合科学部サマースクール (常三島キャンパス)
- ② ヘルスバイオサイエンス研究部統合大学院サマープログラム (蔵本キャンパス)
- ③ 国際センターサマースクール「徳島であおう！」 (新蔵地区)
- ④ ソシオテクノサイエンス研究部サマースクール (常三島キャンパス)

(6) 2013 (H25) 年度

6月～8月の間に4コースを実施した。

- ① 総合科学部サマースクール (常三島キャンパス)
- ② ヘルスバイオサイエンス研究部統合大学院サマープログラム (蔵本キャンパス)
- ③ 国際センターサマースクール「徳島であおう！」 (新蔵地区)
- ④ ソシオテクノサイエンス研究部サマースクール (常三島キャンパス)

(7) 2014 (H26) 年度

7月～2月の間に4コースを実施した。

- ① 総合科学部サマースクール (常三島キャンパス)
- ② ヘルスバイオサイエンス研究部統合大学院サマープログラム (蔵本キャンパス)
- ③ 先端技術科学教育部サマースクール (常三島キャンパス)
- ④ 国際センターサマースクール「徳島であおう！」 (新蔵地区)

(8) 2015 (H27) 年度

7月～8月の間に4コースを実施した。

- ① 総合科学部サマースクール (常三島キャンパス)
- ② 医歯薬学研究部統合大学院サマープログラム (蔵本キャンパス)
- ③ 先端技術科学教育部サマースクール (常三島キャンパス)
- ④ 国際センターサマースクール「徳島であおう！」 (新蔵地区)

(9) 2016 (H28) 年度

7月～8月の間に3コースを実施した。

- ① 総合科学部サマープログラム (常三島キャンパス)
- ② 先端技術科学教育部サマースクール (常三島キャンパス)
- ③ 国際センターサマースクール「徳島であおう！」 (常三島キャンパス)

(10) 2017 (H29) 年度

7月～8月の間に3コースを実施した。

- ① 総合科学部サマープログラム (常三島キャンパス)
- ② 先端技術科学教育部サマースクール (常三島キャンパス)
- ③ 国際センターサマースクール「徳島であおう！」 (常三島キャンパス)

1. 3 実施概要

開講コース	総合科学部サマープログラム 2017（平成 29）年 7 月 10 日～8 月 10 日 先端技術科学教育部サマースクール 2017（平成 29）年 7 月 30 日～8 月 8 日 国際センターサマースクール「徳島であおう！」 2017（平成 29）年 8 月 6 日～8 月 13 日 各コースともに、海外の学生を対象とした英語又は日本語による短期集中講義等を実施して、本学の学生を共に参加させる。
開講場所	徳島大学 常三島キャンパス
対象学生	・学術交流協定校等からの留学生・教員 ・本学学生
主な内容	担当教員による講義、課外活動

1. 4 単位の認定

徳島大学で短期集中講義等を実施し、受講者に修了証書を発行

受入留学生：派遣元大学で将来単位認定が可能〈全コース〉

徳島大学生：先端技術科学教育部サマースクール 国際先端技術科学特論Ⅰ 2単位

2. 1 総合科学部サマープログラム

**Summer Program of Tokushima University,
Integrated Arts and Science Course,
Liberal Arts and Sciences Course**

2. 1 総合科学部サマープログラム

2.1.1 目的

総合科学コース IAS Course

- ・総合科学部学生にとって、身近な隣人であり同世代でもある台湾の大学生との交流を通じて、相互理解を図る。
- ・台湾学生にとっては、台湾で学んだ日本語・日本文化を実際に使用・体験することで、自身の学びを確認する。

教養教育コース Liberal Arts and Sciences Course

グローバル化が進行する中で、異文化に対する理解力・コミュニケーション力を身につけることが必要になっている。さらに、新しい時代に必要な価値観を創造して、グローバル社会で活躍できる人材の育成が、大学改革に課せられた急務の課題である。徳島大学総合科学部サマープログラム教養教育コースでは、留学生に加え、本学に在籍する学生が受講できる集中講義の授業を開設した。本学に在籍する学生と留学生が、講義時間中に「グローバル社会」「持続可能な社会」などについて学び、グループで議論を行う。また、授業時間外における課外活動ではピア学習を行い、お互いの言語や文化を学びあう。このような学生同士の対話を通じて、コミュニケーション力と異文化理解を深める。グローバルな視点を育成するために、多様な国の学生が参加できるプログラムとした。

サマープログラムは大学のキャンパス内だけでなく、西祖谷、穴吹町、脇町といった郊外に出かけ、そこでの暮らしに触れ、徳島における諸課題を知る場を設け、その解決方法について様々な国の学生が議論できる場とした。諸課題を解決するための手段のひとつとしてボランティアがあげられる。「Volunteer experience in local community」を講義名の副題としており、エクスカーショにボランティア実践を盛り込むことで、地域社会における諸課題を体験的に学習できるプログラムとした。そうした諸課題に対して、様々な国からの留学生が自国の課題解決法をお互いに紹介しあい、提案する議論の場を設けることで、地方の課題をグローバルな視点から考える、すなわちグローバルな視野を持つきっかけとした。

このプログラムで外国の大学生との議論をした本学に在籍する学生は、異文化理解に対する興味を高め、交換留学などの制度による留学に興味をもつようになることが期待される。このようにして、日本人学生と諸外国の学生との友好関係を深め、プログラムで培われたグローバル社会への対応力を、自主的な活動や、交換留学に対する動機付けへ発展させることで、留学生も本学に在籍する学生も共にグローバル社会に対応できる人材として育成することを目的とする。

2.1.2 日程

総合科学コース

2017 年 7 月 18 日(火)～8 月 9 日(水) 参加学生数 6 名 (育達科技大学応用日本語学科)

2017 年 8 月 1 日(火)～8 月 10 日(木) 参加学生数 5 名 (同上 夜間主)

教養教育コース

2017 年 7 月 10 日 (月) から 8 月 9 日 (水) 参加学生数 4 名

(モンゴル医科大学 2 名、パサディナ市立大学 2 名)

【教養教育コーススケジュール】

Mon 10 July - Registration

9:00-17:00 Registration

18:00～ Cooking (Okonomiyaki) [Shinkura]

Tue 11 July

10:25～11:55 Orientation [4-203]

14:35～16:05 Global Communication with Citizens / Ohashi [6-201]

16:20-17:50 Medical care system / Ohashi

18:00～21:00 Cooking (Rolled Sushi) [Shinkura]

Wed 12 July

10:25～11:55 Cross-Cultural Communication / Misumi & Ohashi [6-201]

12:50～14:20 Lab Experiment 1 / Kitaoka [6-Kitaoka's Office]

14:35～16:05 Language Education Center (Work shop) [Glocal Communication Hall]

18:00～21:00 Cooking (Curry) [Shinkura]

Thu 13 July

9:30-10:10 B project / Yoshioka [1-Culture Lounge]

10:25～11:55 Japanese / Murakami [5-301]

12:50～14:20 Active learning by volunteer activities / Ohashi [6-303]

Fri 14 July

10:25～11:55 B project / Yoshioka [1-Culture Lounge]

12:50～14:20 B project / Yoshioka [1-Culture Lounge]

14:35～16:05 Language Education Center (Work shop) [Glocal Communication Hall]

Sat 15 July Mt. Bizan climbing

Sun 16 July Awa Jurobei Yashiki

Mon 17 July - National Holiday - Marine Day Hyotan-jima cruise

Tue 18 July

9:30～10:10 B project / Yoshioka [1-Culture Lounge]

10:25～11:55 Cultural Communication with Citizens [4-202]

12:50-14:20 Theoretical Biology 1 / Watanabe [1-Watanabe's Office]

14:35～16:05 Global Communication with Citizens / Ohashi [6-201]

16:20-17:50 Yoga [Komiyaama, Ohashi]

Wed 19 July

10:25~11:55 Cross-Cultural Communication / Misumi & Ohashi [6-201]

12:50~14:20 Introduction to Logics / Yamashiro [1-Yamashiro's Office]

18:00~21:00 Cooking (Meat & Potato) [Shinkura]

Thu 20 July

10:25~11:55 Biology 1 / Satoh [3-Biology Room]

12:50~14:20 Active learning by volunteer activities / Ohashi [6-303]

14:35~16:05 B project / Yoshioka [1-Culture Lounge]

16:20~17:50 B project / Yoshioka [1-Culture Lounge]

18:00~21:00 Cooking (Karaage Tempura) [Shinkura]

Fri 21 July - Sat 22 July

Excursion: Traditional House Experience Nishi-IYA Village / Ohashi

Sun 23 July Free Day

Mon 24 July

10:25~11:55 Medical Care System / Ohashi

16:20~17:50 Global Communication / Ohashi [6-201]

18:00~ Cooking (Curry) [Shinkura]

Tue 25 July

10:25~11:55 Cultural Communication with Citizens [4-202]

12:50~14:20 Theoretical Biology 2 / Watanabe [1-Watanabe's Office]

14:35~16:05 Global Communication with Citizens / Ohashi [6-201]

16:20-17:50 Yoga [Komiyaama, Ohashi]

Wed 26 July

10:25~11:55 Cross-Cultural Communication / Misumi & Ohashi [6-201]

14:35~17:50 Medical Ethics / Ohashi [4-404]

18:30~ Banquet [Tori-Kyodai (near Shinkura Kaikan)]

Thu 27 July

10:25~11:55 Biology 2 / Satoh [3-Biology Room]

12:50~14:20 Active learning by volunteer activities / Ohashi [6-303]

15:00~16:30 Chemistry / Minagawa [3-Minagawa's Office]

Fri 28 July Excursion, University Hospital & Tokushima City

9:30~12:00 (Excursion) University Hospital / Iwata

13:00~17:00 (Excursion) Tokushima City / Saito

Sat 29 July Free Day

Sun 30 July Free Day

Mon 31 July

10:25~11:55 Medical Care System / Ohashi

12:50~14:20 Traditional Medicine, Kenbiki / Oguchii [6-303]

14:35~16:05 The Shikoku Pilgrimage route Lecture / Moreton
[Glocal Communication Hall G302]

16:20~17:50 Global Communication / Ohashi [6-201]

18:00~21:00 Cooking (Karaage & Tempura) [Shinkura]

Tue 1 August Excursion / The Shikoku Pilgrimage route

8:00 Depart from Electrical and Electronic Engineering building
8:10 Kamikatsu Town, Zero Waste (Recycle center)
10:30 Tairyuji Temple (21st)
13:15 Hanoura children's center
17:00 Arrive at university

Wed 2 August

10:25~11:55 Cross-Cultural Communication / Misumi & Ohashi [6-306]
12:50~14:20 Lab Experiment 2 / Kitaoka [6-Kitaoka's Office]
16:20~17:50 Suiyo-Gakusha / Ohashi [6-201]

Thu 3 August

10:25~11:55 Chemistry / Minagawa [3-Minagawa's Office]
12:50~14:20 Active learning by volunteer activities / Ohashi [6-303]
Evening Depart from Tokushima Univ. for Excursion

Fri 4 - Sat 5 August

Excursion / Traditional House Experience in the towns of Anabuki and Waki

Sun 6 August Free Day

Mon 7 August International Student Conference ~ Innovation for Sustainable Society ~ (Canceled by Typhoon)

9:00~12:00 Student Conference [5-302, 303]
13:30~16:00 Student Conference [5-302, 303]
18:00~ Intercultural party - BANQUET [Awa Kanko Hotel (near Tokushima Station)]

Tue 8 August Excursion / NARUTO (Canceled by Typhoon)

9:00 Depart from Electrical and Electronic Engineering building
10:50 View Naruto whirlpools
15:00-16:00 Otsuka pharmaceutical company, ITANO factory
Arrive at university
18:00~21:00 Farewell Party [Shinkura]

Wed 9 August Excursion / OSAKA

Closing (Entrance hall of guest house)
Depart from Shinkura Kaikan
Bus bound for Osaka

2.1.3 講義概要

総合科学コース

- ・教養教育（世界の中の日本語、日本語の敬語各 2 回）、総合科学部専門科目（日本言語演習、日本語表現の基礎各 1 回）における言語交流
- ・日本語による研修報告会

教養教育コース

教養教育のグローバル化教育科目において「Global Communication - Volunteer experience in local community」を集中講義の授業として開講し、留学生と本学に在籍する学生がともに受講できるようにした。

○講義（徳島大学病院見学）



2.1.4 エクスカーション

総合科学コース

(高校生との交流会)

- 7月19日(水) 市立高校での交流会
- 7月21日(金) 池田高校での交流会、高校生との祖谷訪問(落合集落、かずら橋)
- 7月24日(月) 脇町高校での交流会、高校生とのうだつの町並み見学、藍染め体験
- 7月31日(月) 脇町高校での交流会、日本文化体験

(学外施設等訪問)

- 7月22日(土) 香川旅行(栗林公園、金刀比羅宮)
- 7月23日(日) 県立博物館(文化の森)見学
- 7月28日(金) 遍路体験(霊山寺、極楽寺)、鳴門の渦潮見学
- 7月30日(日) マルシェ散策、新町川クルーズ、阿波踊り会館見学、眉山散策
- 8月1日(火) 神戸日帰り散策(7月18日の来日組)
- 8月2日(水) 茶道体験(石井町・河崎様宅)
- 8月3日(木) 徳島城博物館
- 8月4日(金) 5日(土)
 - 8月1日来日組 … 日和佐町訪問(薬王寺、海亀博物館、地元の方との交流)
 - 7月18日来日組 … 大阪・京都一泊旅行(大阪城、なんば、錦市場、伏見稲荷など)
- 8月8日(火) 埋蔵文化センター(勾玉作り)
- 8月9日(水)
 - 8月1日来日組 … 大阪周遊(大阪城、心斎橋など)

教養教育コース

- 7月22日(土)～23日(日) 西祖谷
- 7月28日(金) 四国遍路(霊山寺ほか)
- 8月1日(火) 四国遍路(太龍寺ほか)
- 8月4日(金)～5日(土) 穴吹町・脇町



総合科学コース

FACULTY OF INTEGRATED ARTS AND SCIENCES



「OKUSHIMA UNIVERSITY

anami-Josanjima, Tokushima 770-8502 Japan

11 September, 2017

CERTIFICATE OF COMPLETION

Name:

Date of Birth:

This document certifies that the student mentioned
above has successfully completed the following
programs.

Program

Title: Summer Program of Tokushima University

Course: Integrated Arts and Science course

Professor: MURAKAMI, Keiichi;

YOSHIOKA, Koyu;

GEHRTZ-MISUMI, Tomoko; SAITO, Takahito

Period: 18th July 2017 – 9th August 2017

Hours: 90h

Signature

KURISU, Satoshi

Dean

Faculty of Integrated Arts and Sciences

Tokushima University



**FACULTY OF INTEGRATED ARTS AND SCIENCES
TOKUSHIMA UNIVERSITY**

1-1 Minamijosanjima, Tokushima 770-8502 Japan

11 September, 2017

CERTIFICATE OF COMPLETION

Name: [REDACTED]

Date of Birth: [REDACTED]

This document certifies that the student mentioned above has successfully completed the following programs.

Program

Title: Summer Program of Tokushima University

Course: Integrated Arts and Sciences course

Professor: OHASHI, Makoto; MURAKAMI, Keiichi; YOSHIOKA, Koyu;
GEHRTZ-MISUMI, Tomoko; KITAOKA, Kazuyoshi;
WATANABE, Minoru; YAMASHIRO, Tadashi; SATO
Takanori; MINAGAWA Keiji; IWATA, Takashi; MORETON,
David; SAITO, Takahito

Period: 10th July 2017 – 9th August 2017

Hours: 106h



Signature

Satoshi Kurisu

KURISU, Satoshi

Dean

Faculty of Integrated Arts and Sciences
Tokushima University

総合科学コース

本学学生の感想から

① 総合科学部 1 年生

サマープログラムのおかげでたくさんの台湾人の学生に会えました。みんなといっぱい話したり、色々な徳島県の文化を体験したりしました。台湾のことがいっぱい勉強になって良かったです。私は日本について知識不足で、台湾人の学生に日本のことが答えられなくて残念でした。これからもっと頑張り日本語だけではなくて日本の文化、社会も勉強したいと思います。

② 総合科学部 1 年生

私は今まで異文化交流の機会に恵まれてきませんでした。しかし、大学に入り、こういった機会に恵まれた事で、異文化理解の精神を育む事が出来ました。

交流の中で相手を理解しようと、自分を理解してもらおうとしたことは、異文化理解の土台となる部分を体感できたと感じています。異文化理解の精神を育む良い機会でした。

③ 工学部 3 年生

今年の春、育達科技大学に行った時に会った人も来ており、「折り紙を教えてくれた」ということまで覚えてくれていたのが嬉しかった。育達の学生と高松・琴平に行ったときは、栗林公園を一緒に散策したり、うどんを食べたりと、暑い日だったが楽しむことが出来た。

④ 総合科学部 1 年生

台湾研修サポーターに参加して、台湾の学生と交流するだけでなく、日本の文化、習慣をわかりやすく説明する能力を鍛えることができました。

そして、何よりサポートを喜んでくれて、これからも参加しようと思いました。

⑤ 総合科学部 3 年生

台湾人の皆さんと日本語と中国語で交流して、外国人と言葉や文化の違い、生活のことなどについて話しすることができて楽しかったです。台湾人の皆さんと中国語で会話できた時は、中国語を勉強していて良かったと思いました。これからもっとコミュニケーションが取れるように勉強したいと思いました。日本を楽しんでもらえて良かったです。

台湾学生の感想から

⑥ 今回は徳島へ行きました、とても楽しかったです。いろいろな人たちと出会いたくさんの場所を見学しました。初めての日本で何もかも新鮮でびっくりした。まだまだ行きたい場所がありました。将来お金を稼いで必ず徳島へ行きます。徳島は大切な思い出の場所だからです。

⑦ 今回徳島大学には勉強に来ました。たくさん日本の学生と交流して、色々見たことのない物を見ました。そして日本人の女性から地元方言を教えてもらいました。私は今回日本へ行った楽しい思い出を絶対に忘れません、死んでも忘れません。また AEON へ行きたいし、またしんく

ら会館に泊まりたいです。初めての海外旅行の日本は本当に良かったです！

⑧ 夏休みの研修は楽しかったです。徳島の景色は最高です。こんぴら神社の一番上まで登ったことは疲れたけど、それは絶対忘れられません。村上先生と徳島の学生達は良い人で、私たちは村上先生と徳島の学生達がいつか台湾に来た時は、絶対きちんと案内します。

⑨ 私は日本語に興味を持っているし、日本人と話したいので、徳島大学の研修に参加しました。メンバーは私と先輩たちの六人で、日本の学生と交流しに来ました。初めはちょっと心配したり緊張したりしました。でも色々なことを教えてもらいました。そして現地の見物に案内してもらいました。先生も優しく、お父さんみたいで、いつもどこかへわたしたちを連れて行って下さって、本当に嬉しかったです。徳島は最高です。

⑩ 今回の徳島大学研修はとても楽しかったです。色々綺麗な景色がいっぱいあり、鳴門大橋の渦潮や、かずら橋や、金刀比羅宮や、伏見稲荷大社などを見ました！研修場所で一番印象深いことは徳島県の方が伝統文化を大切に伝承していることです。私はこの精神に対して非常に感動しました。

⑪ 今回の夏休み、徳島大学の三週間の研修に参加しましたが、私は日本人と友達になったり、日本の生活を体験したり、いろいろな物をかったり、おいしい日本料理を食べたり、そしていろいろな観光名所へ行ったりしました。しかし一番貴重だったのは先生たちのことです。徳島大学の学生さん達、そして一緒に来た友達のおかげで、素晴らしい思い出をもらったことです。皆には心から感謝しています。

教養教育コース

参加目的

- ・ 日本文化の体験と日本への理解
- ・ 日本における大学生活の学習
- ・ 日本人や他国の学生と話をし、友人をつくる
- ・ 日本の医療制度を知る

サマープログラムの成果について

- ・ さらに日本語、日本文化の学習を深める動機となった
- ・ 寛容な心を得ることができた。
- ・ 「おもてなし」の精神の理解ができた。
- ・ 日本の医療システムの理解

印象に残ったプログラムとその理由

- ・ 市民との交流を通じて、日本の文化と風習を容易に知ることができた。

- ・エクスカーションにおける見学を通じて、徳島の歴史と自然を学習できた。
- ・プロジェクト B のクラスの学生との会話を通して、彼らから文化を知ることができた。
- ・医学部生であるため、大学病院見学と理論生物学が興味深かった。

改善すべき点

- ・特にない
- ・期間中の徳島における特別行事についての情報があると良い。

サマープログラムを通じて、今後の学習・進路にどのような影響があったか

- ・大学に戻り、医療や生物の領域に関わる学習を深めたい。
- ・さらなる学習に対する動機づけ。

総合科学コース

今回、総合科学部実践学習科目にサマープログラム参加の学生との交流活動を取り入れて、より多くの本学部の学生がサマープログラムで本学に滞在中の参加者と関わるようになった。そして、この交流研修を体験した本学学生の多くが、春季研修にて台湾を訪れることとなる。短期研修において、相互の大学訪問を実施し交流を深めており、相互互惠の精神に基づく国際交流は、発展を続けている。台湾の各協定大学と本学との交流をさらに深める取り組みを進めたい。

教養教育コース

教養教育院のグローバル化教育科目にサマープログラムの留学生を受け入れる集中講義「Global Communication・Volunteer experience in local community」を開講した。本学に在籍する学生も受講でき、「グローバル社会」「持続可能な社会」などのテーマについての議論を行った。こうした取り組みは、参加者が内容の多様性に触れるだけでなく、多様な人との交流の大切さに触れる契機となっている。

集中講義は前期試験期間と重なるため、受講はしないものの、プログラムに参加を希望する学生を部分的に受け入れることができるように配慮した。その一つはエクスカージョンへの参加である。エクスカージョンに留学生と同行することで、長時間のコミュニケーションが可能である。また、夕方にしんくら会館にて **Cooking** を実施した。留学生と日本人学生が協働して夕食を作り、夕食を共にすることを通じて、長時間の会話をを行う。部分的ではあっても、長時間にわたる交流を通じて、本学在籍者が多文化に対する興味、さらには留学に対する興味を高めることが期待される。実際、教養教育では、モンゴル、タイ、インド、スロベニア、米国への短期留学を行う授業を実施しているが、これらの授業の受講者の多くは、本プログラムに参加している。

留学生は日本の文化体験を通じた学習の希望が多い。そこでエクスカージョンについては、日本の自然・文化・歴史・暮らし・環境・地域課題などを総合的に学習することができるように配慮したプログラムを準備した。体験の後に、考え・議論する視点として、授業ではテーマを「医療」とし大学病院の見学などを実施した。健康・医療・食料に関する課題を発見するために、西祖谷、脇町などのエクスカージョンを実施した。

体験を通して知ることの次のステップとして、徳島の諸課題に気づき、世界各国で実践されている課題解決の方法をお互いに学びあうことにある。その総括としての学生インターナショナル・カンファレンスにおいては、学習成果を発表するとともに、「環境」「健康」「教育」といったテーマをグループで議論し、グループの意見を発表する場として予定したが、残念ながら台風により中止となった。

本プログラムは 2012 年より開始して、6 年目となる。この間に、プログラムの企画と実施そして反省点を踏まえて、より多くの教員がプログラムに携わり、多様な観点から内容の充実が図られた。特に学生インターナショナル・カンファレンスのように多くの学生が参加する企画において、より教育効果が高く、そして学生の満足度の高いプログラムを提供できると考えている。さらには地域社会の課題をボランティアの視点で体験的に学習していくという教育環境の充実が、本学の国際化推進に寄与すると考えられる。

2. 2 先端技術科学教育部サマースクール

International Affiliated Double-Degree Program Summer School

2. 2 先端技術科学教育部サマースクール

2.2.1 目的

本プロジェクトは、7月最終週から8月第1週に大学院生を対象としたサマースクールを学術交流協定校と連携して開講し、外国大学から留学生を短期に受け入れ、環境・エネルギー技術に関する先端技術科学の授業を中心に英語で実施する。これらの授業は本学教員と外国大学教員が共同して受け持ち、本学学生も受講する。この短期受入プログラムでは、当教育部のグローバル大学院工学教育プログラムに準じたナノテクノロジーコース、電気エネルギー・情報工学コース、環境保全コースのサマースクールの講義内容の3つを柱とし、日本語のしくみ・日本文化を解説する講義や徳島の文化・技術を体験できるフィールドワーク、徳島県内企業が実施している環境・エネルギー対策の取り組みに触れる機会となるツアーを提供する。また、各留学生に対しては、興味や専門分野にマッチした本学研究室のインターンシップを実施し、将来本教育部のダブルディグリープログラム等で留学する動機付けを与える。

日本人学生に対しても、外国大学からの受入学生とともに講座やフィールドワーク、PBL型グループディスカッションを経験することで、実社会での問題解決に果敢に挑戦できる国際感覚を身につけた専門知識を持った高度な環境エンジニアを養成する。

2.2.2 日程

期間 2017年7月30日（日）～8月8日（火）

参加人数 60名

Nanotechnology and Material Science Course	35名
Electrical Engineering and Information Science Course	20名
Civil and Environmental Engineering	5名

大学別内訳

Harbin Institute of Technology	1名	}	中国	7名
Xi'an Jiaotong University	2名			
NanTong University	2名			
Xidian University	2名			
Universiti Teknikal Malaysia Melaka	4名		マレーシア	4名
Southern Taiwan University of Science and Technology	3名		台湾	3名
Savitribai Phule Pune University	1名	}	インド	2名
Dr. Babasaheb Ambedkar Marathwada University	1名			
Islamic Azad University	1名			
徳島大学	43名		イラン	1名

Schedule: *Summer School* 2017

First Week				
July 30	16:00 18:00	Registration		
July 31	10:00 10:30	Opening Ceremony	Yasuhiko Kawamura (Dean of Engineering) Toshihiro Moriga (Director, CICEE)	Opening Speech Opening Remark
	10:30 12:00	Guidance	Mikito Yasuzawa (Vice Director, CICEE) (Yunong Wu, CICEE)	Summer School Orientation: Program and Information
	13:00 14:30	Common Lecture 1	Satoshi Hashimoto (Tokushima University)	Basic Japanese for Communication
	14:45 16:15	Common Lecture 2	David Moreton (Tokushima University)	The Shikoku Pilgrimage - Its history and traditions
August 1	09:00 16:00	Field Trip (1)		
August 2	10:30 12:00	Common Lecture 3	Seri Rahayu Binti Kamat (UTeM)	Ergonomic Risk Assessment In Manufacturing
	13:00 16:15	Common Lecture 4	Masafumi Miwa (Tokushima University)	Thrust control for Multicopter system
August 3	10:30 12:00	Common Lecture 5	Ri-ichi Murakami (NTUST)	Physical and Chemical Properties of Nanomaterials
	13:00 16:15	Internship & Lab tour		
August 4	10:30 12:00	Student Presentation	(Mikito Yasuzawa, Koinkar Pankaj, Yoko Uwate, Yunong Wu)	
	13:00 14:30	Special Lecture 1	Yoshihisa Suzuki (Tokushima University) Nano. and Mat.Science	Fundamentals of Crystal Growth
			Shun Nishide (Tokushima University) E.E. and Inf. Science	Creation of developmental robots using neural networks
			Yasunori Muto, Mahito Kamada,Kaoru Ono	Regional Planning with Nature

			(Tokushima University) Civil and Env. Eng.	
	14:45 16:15	Special Lecture 2	Nakagaito, Antonio Norio (Tokushima University) Nano. and Mat.Science	Cellulose nanofibers: extraction and uses
			Song, Tian (Tokushima University) E.E. and Inf. Science	Video coding algorithms and implementations
			Yasunori Muto, Mahito Kamada, Kaoru Ono (Tokushima University) Civil and Env. Eng.	Regional Planning with Nature
August 5,6		Free Time		

UteM: Universiti Teknikal Malaysia Melaka

NTUST: National Taiwan University of Science and Technology

Second Week				
August 7	9:00 16:00	Student Conference	Makoto Ohashi (Tokushima University)	-Innovation for Sustainable Society- 1 Health and Environment 2 Local Culture 3 Problems of School Education
	18:00	Intercultural Party		AWA KANKO Hotel
August 8	9:00 17:00	Field Trip (2)		
	17:00	Closing Ceremony		

8月7日のスケジュールは台風接近のため中止

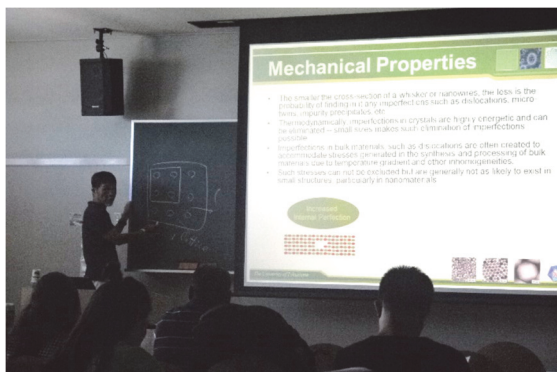
2.2.3 講義概要

実施期間 2017 年 7 月 30 日（日）～8 月 8 日（火）

大学院先端技術科学教育部が開講しているサマースクールは、平成 29 年度では本教育部に所属するダブルディグリーコースの学生 26 名および本学学生 17 名を加えた 60 名の受講生で開講した。本年度は、海外からの受講生への補助金の提供を行わないとの連絡を予め行っていたが、アジアの国々から学術交流協定校を中心に 17 名の外国人学生を迎えた。7 月 31 日に開講式を行った後、参加学生による自己紹介を行った。午後からは簡単な日本語表現・会話の講義、四国圏独自の歴史・文化である伝統的なお遍路文化を学ぶ講義を行った。なお講義は工学と理学を融合させた STEM 講義等の Common lecture と、ナノテクノロジーコース、電子工学・情報科学コース、環境保全コースの 3 コースに分かれ、より専門的な内容の Special lecture の両方を提供した。



開講式



講義の様子



講義の様子

2.2.4 エクスカーション

実施日 2017年8月1日（火）

第21番札所 太龍寺 → 橘湾火力発電所（四国電力株式会社）

実施日 2017年8月8日（火）

鳴門の渦潮 → 第1番札所 霊山寺 → 大塚製薬株式会社 徳島板野工場



第21番札所 太龍寺



橘湾火力発電所



鳴門スカイラインの展望台



第1番札所 霊山寺



大塚製薬 徳島板野工場



Questionnaire for Summer School 2017

prepared by CICEE, Tokushima University

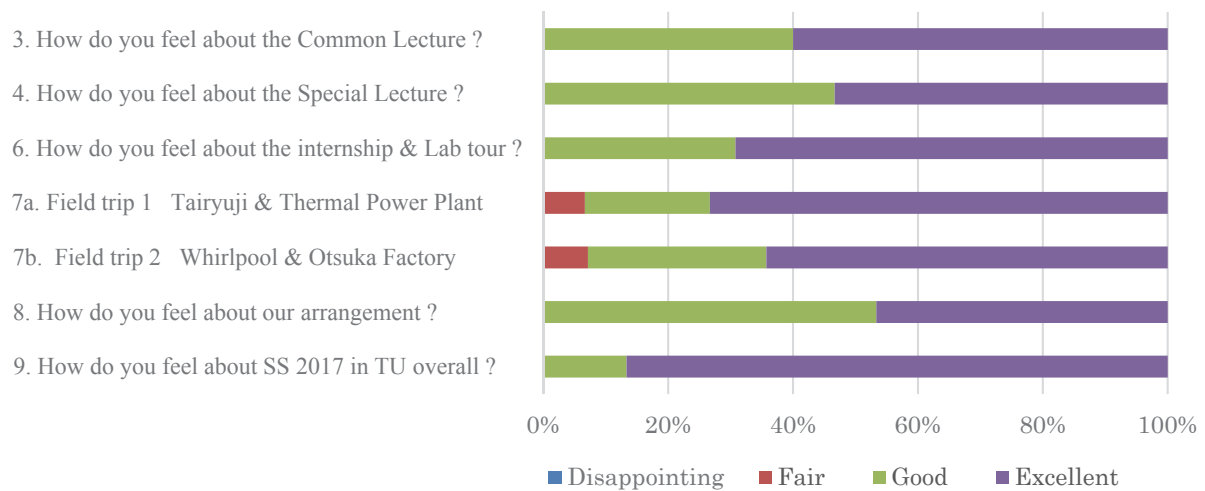
For improving the quality of next Summer School, we would like to conduct a questionnaire for students who participated in Summer School 2017 held in Tokushima University. Any additional comments and advices are also popular. Thank you for your cooperation.

Basic information

1. Course you participated in: ☐ Nano ☐ IEE ☐ Civil
2. Did you attend SS at TU before? ☐ Yes ☐ No

Question

3. How do you feel about common lecture?
➤ Contents
☐ Disappointing ☐ Fair ☐ Good ☐ Excellent
4. How do you feel about the special lecture?
➤ Contents
☐ Disappointing ☐ Fair ☐ Good ☐ Excellent
5. How do you feel about the Student Conference?
☐ Disappointing ☐ Fair ☐ Good ☐ Excellent
6. How do you feel about the One-day internship & Lab tour?
☐ Disappointing ☐ Fair ☐ Good ☐ Excellent
7. How do you feel about the field trips?
 - a. Field trip 1
☐ Disappointing ☐ Fair ☐ Good ☐ Excellent
 - b. Field trip 2
☐ Disappointing ☐ Fair ☐ Good ☐ Excellent
8. How do you feel about our arrangement?
☐ Disappointing ☐ Fair ☐ Good ☐ Excellent
9. How do you feel about Summer School 2017 in TU overall?
☐ Disappointing ☐ Fair ☐ Good ☐ Excellent
10. Are there any comments, requests or advice? If you have, please write them down.



Comment or advice on common lecture

1. Should include more introduction about Japanese history and economy
2. Add some interesting lectures which can exercise students' language communication
3. Enrich the course types

Comment or advice on special lecture

1. Organize the discuss in the form of circle desk
2. Enrich the course types

Comment or advice on one-day internship

1. Meet a lot of local student and get to know their working situation
2. Much longer and more communication with Japanese friend
3. Do something by students themselves
4. More equipment should be introduced

Comment or advice on field trips

1. Much longer
2. Can be arranged in another city, like Osaka

Comment or advice on arrangement

1. Sometimes cannot access email, hence, they would have missed the information
2. Dinner party after field trip

Any other comment or advice on SS

1. Extend the duration

Conclusions

1. Add one common lecture about Japanese history and culture
2. If possible add the student discussion in circle desk
3. At least one day field trip arranged in other city

2.2.7 成果報告

本年度は、海外から参加する学生に対しては参加申込時において、本学の研究室へのインターンシップを実施することから希望する研究室を記載するように促した(希望順で三つの研究室を記載)。その結果、ほとんどの学生から研究室名(教員名、もしくは当人の研究内容の情報)の記載があり、それらの情報をもとにインターンシップの受け入れ先の選定並びに受け入れ可能かの承諾を得る作業を行った。関連する各系・コースの国際連携教育開発センターの運営委員を通して対応して頂いたところ、当日都合の付かない研究室もあったが、いずれの学生も関連する研究室においてインターンシップを実施することができた。なお、インターンシップに関するアンケート結果では、70%が5段階評価で最も高い5を、残りの30%もそれに次ぐ4の評価を出しており、受け入れて下さった研究室の適切な準備・対応により、大変有意義な行事になったと思われる。ご協力頂いた研究室の教員・学生の皆様には、この場を借りて厚く御礼申し上げたい。インターンシップは4日目の8月3日に実施したことから、その後も在校生と交流を持った留学生も多くいたようである。

8月1日は橘湾火力発電所を訪問したが、見学ツアーを開始する前において、発電所の概要、並びに環境対応・対策に関する取り組みの説明があり、排水処理システム等だけではなく、環境のなかにマッチした建物のデザインの導入、敷地内並びに周辺地域の整備等、日本の企業が行っている努力に関する情報・知識は、非常に有用であったように思われる。

最後に本プログラム開催期間中に、台風の接近により8月7日に予定されていた Student Conference とサマープログラム合同交流会が中止となった。総合科学部(教育部)のサマースクールと共同で行う Student Conference では、学生発表が予定されていた。留学生は来日前から発表の準備を行っており、それを発表する場を提供できなかったことは大変残念であった。



ドローンからの空中撮影

2. 3 国際センターサマースクール

「徳島であおう！」

International Summer School

Get together in Tokushima!

2. 3 国際センターサマースクール「徳島であおう！」

2.3.1 目的

本サマースクールは、(1) 海外の大学から参加する学生が、将来本学で交換留学生や正規外国人留学生として学んでもらうこと、(2) 徳島大学での学習・研究、ならびに徳島の文化について理解してもらうこと、また(3) 日本人と他国からの参加学生がお互いに出会い知り合うことで、今後の国際化に向けた自らへの振り返りを促すことを目的として実施した。

2.3.2 日程

期 間：2017年8月6日（日）～8月13日（日） ※8月12日（土）に修了式を行った。
参加人数：82名 （海外参加者：34名、日本人学生・本学留学生・地域住民：48名）

【中国】 15名
・大連理工大学 10名 （引率1名を含む）
・吉林大学 5名

【韓国】 8名
・韓国海洋大学 8名

【アメリカ合衆国】 1名
・ラガーディア・コミュニティ・カレッジ 1名

【ベトナム】 4名
・ハノイ土木大学 4名

【インドネシア】 3名
・ムルデカ大学マラン 3名

【モンゴル】 3名
・モンゴル医科大学 3名

日程

1 日目：8 月 6 日（日）		
15:30-	徳島駅集合 & ホテルチェックイン	
2 日目：8 月 7 日（月）		
台風接近のためプログラム中止		
3 日目：8 月 8 日（火）		
9:00-11:00	徳島ビジネス体験（大塚製薬企業見学）	大塚製薬（オロナミン C・ポカリスエット工場、能力開発研究所）
11:00-12:00	徳島ビジネス体験（社員食堂で昼食）	大塚製薬内食堂
12:30-13:30	徳島文化体験（渦の道見学）	渦の道
15:20-16:20	ショッピング	イオンモール徳島
16:30-17:00	開講式	共用室 302、303
17:00-18:00	キャンパスツアー・日本人学生との交流	常三島キャンパス
4 日目：8 月 9 日（水）		
9:30-10:00	オリエンテーション	共用室 302、303
10:00-11:00	日本文化体験学習（邦楽）	共用室 302、303
11:00-12:00	徳島文化講義	共用室 301
12:00-14:00	昼食	
14:00-16:00	日本文化体験学習（茶道） カード作り	フューチャーセンター 共用室 302、303
5 日目：8 月 10 日（木）		
10:30-12:00	文化の森魅力発見！プロジェクト	文化の森
12:00-13:00	昼食	
6 日目：8 月 11 日（金）		
9:30-10:45	徳島文化体験（藍染め体験）	藍の館
11:00-11:45	徳島文化体験（霊山寺見学）	霊山寺
12:15-12:45	昼食（購入）	パワーシティ鳴門店
13:15-15:15	徳島文化体験（大塚国際美術館見学）	大塚国際美術館
7 日目：8 月 12 日（土）		
9:30-11:30	振り返り & まとめ	共用室 302、303
11:30-11:40	阿波踊り説明会	共用室 302、303

11:40-12:40	グループ発表・修了式	共用室 301
12:40-13:40	茶話会	共用室 302、303
13:40-20:30	自由行動（阿波踊り見学）	
20:45-23:00	バス移動	
	ホテルチェックイン	京都
8 日目：8 月 13 日（日）		
9:00-15:00	京都ツアー（金閣寺、清水寺、東寺）	京都



2.3.3 講義・活動概要

実施期間 2017年8月6日（日）～8月13日（日）

場所 地域創生・国際交流会館 他（日程参照）

講師一覧

国際センター教員	教授（センター長）	金 成海
	教授	Gehrtz 三隅 友子
	教授	橋本 智
	特任教授	内藤 毅
	講師	TRAN HOANG NAM
	特任助教	福岡 佑子
教養教育院教員	准教授	モートン 常慈



2.3.4 エクスカーション

日時：2017年8月8日（火）

○企業見学（大塚製薬） 9:00～11:00



○渦の道見学 12:30～13:30



日時：2017年8月11日（金）

○藍染め体験 9:30-10:45



○靈山寺参拝 11:00-11:45



○大塚国際美術館見学 13:15-15:15



○眉山見学 16:15-17:15



日時：2017年8月13日（日）

○京都見学 9:00-15:00





PROGRAM QUESTIONNAIRE

For International Summer School at Tokushima Univ.

2017

Please answer ALL items in this program questionnaire. In order to improve our future programs, your feedback is very important for us. ※34 名回答

1) Please write your affiliation (with names of the department, institute, university and country)

- 【韓国】韓国海洋大学 8 名
- 【中国】大連理工大学 10 名（引率教員 1 名含む）
- 【中国】吉林大学 5 名
- 【ベトナム】ハノイ土木大学 4 名
- 【インドネシア】ムルデカ大学マラン 3 名
- 【モンゴル】国立モンゴル医科大学 3 名
- 【アメリカ】ラガーディア・コミュニティ・カレッジ 1 名

2) Did this program have a positive impact for your study or future career? If yes, please write the reasons.

- ・英語力の向上（3 名）
- ・異文化についてより理解でき、たくさんの新しい友人に出会えた。
- ・有益な知識と留学への準備を提供してくれた。
- ・自分の研究分野に良い影響を得た。多くの建物を見て、構造や外観、内装を学ぶことができた。
- ・他の国からの参加者と知り合え、文化を共有することができた。
- ・時間を守ること。他言語。
- ・学士修了後、徳島大学で勉強したい。
- ・面白くて、楽しかった。人生の中でも最高の時間だった。徳島大学で勉強したい。
- ・多文化を知ることができた。（2 名）
- ・世界はつながっていく必要がある。だから、外国人と出会うことは良かった。
- ・このプログラムを通して、日本で働きたいと思った。
- ・英語力と他の国の人達とのコミュニケーションスキルの向上。
- ・私の人格にポジティブな影響をもたらした。
- ・他の国に興味を持った。今まで習ったことのない言語にも挑戦したい。
- ・いろいろな国の学生と英語で交流でき、素晴らしい経験になった。
- ・現在と将来の研究に素晴らしい影響をもたらした。日本文化を学び、今後、日本で勉強したいと思う。
- ・先生方だけでなく、市民の皆さんを含め、日本人は心優しいと感じた。景観、文化、マナー、全てが素晴らしかった。
- ・先生方は学生の世話を一生懸命してくれた。ホスピタリティーがある。準備が行き届いていた。
- ・外国人の友人が沢山できた。日本語力の向上。
- ・このプログラムで日本が大好きになった。いつか将来、日本に留学するかもしれない。
- ・日本の工業を知ること、自国の技術の改善、向上が必要であると感じた。また日本人のホスピタリティーに触れ、これからはもっと人に親切にしようと思う。
- ・将来、日本に留学するかもしれない。日本文化をより知ることができ、自分の日本語の練習にもなった。

3) How did you think about the following activities?

- ・素晴らしい！（４名）
- ・このプログラムで体験した全ての活動が楽しかった。参加できて本当に良かった。
- ・とても忙しい日もあったが、面白かった。寿司、茶道、天候（台風）、鳴門の渦潮、全てが最高の体験だった！！
- ・素晴らしかったです。ありがとう。（２名）
- ・面白かったが、もっとレジャーがほしかった。
- ・面白くて価値がある。ただ疲れすぎるかも。

- Tokushima Business Culture at Otsuka Factory

Very Interesting	-----	Average	-----	Not Interesting	無回答
5 (23 名)	4 (7 名)	3 (2 名)	2	1	(2 名)

Comments:

- ・けっこう良かった。（２名）
- ・素晴らしい経験、学ぶことが多かった。（２名）
- ・工場はとても近代的で、有益な知識を得ることができた。
- ・素晴らしかった。（７名）
- ・面白くて、楽しかった。
- ・将来、人類が食物を作る必要はなくなるかもしれない。全て機械化していた。
- ・一番感動したのは、工場の生産性。（２名）
- ・工場見学は初めてだった。最先端の設備を見て、日本は進んでいると思った。
- ・オートメーションは私の想像を超えていた。（２名）
- ・トマトの木は本当にすごかった！

- Tokushima Local Culture Experience: Whirlpool Observation

Very Interesting	-----	Average	-----	Not Interesting	無回答
5 (24 名)	4 (7 名)	3 (2 名)	2	1	(1 名)

Comments:

- ・渦潮をはっきり見ることはできなかったが、鳴門大橋は素晴らしかった。
- ・初めて見た。自然のすごさ。（３名）
- ・素晴らしい眺めだった。（９名）
- ・こういった場所に初めて行った。橋が揺れてもいいことと知っていたが、鳴門大橋はとても揺れた。
- ・とても良かった。（８名）
- ・最高、面白かった。（２名）
- ・驚きの光景だった。
- ・いつか両親を連れてきたい。
- ・怖かったけど、すごかった！
- ・渦の道を見た後で、日本の環境はとても良いと思う。海は超きれいだと思う。

- Learn the University: Campus Tour with Tokushima University Students

Very Interesting	-----	Average	-----	Not Interesting	無回答
5 (24 名)	4 (5 名)	3 (4 名)	2	1	(1 名)

Comments:

- ・キャンパスはモダンで便利だった。
- ・日本人学生、好きです。
- ・徳大の学生はとてもフレンドリー、親切だった。（７名）
- ・時間が短すぎた。（２名）

- ・徳島大学について知ることができた。(2名)
- ・もっと色々見たかった。(2名)
- ・徳島大学に留学するのも悪くないと思った。留学してみたい。
- ・もっと日本人学生との時間がほしい。(2名)
- ・ずっと日本人の友達を作りたいと思っていたので、日本人学生と話せて良かった。
- ・ガイドが道に迷って、どうしたらいいか分からなかった。
- ・アカデミックな雰囲気、きれいな教室、美味しい食事に驚いた。
- ・日本の大学を肌で感じる事ができた。

- Japanese Culture Experience: Traditional Japanese Music and Tea Ceremony

Very Interesting	-----	Average	-----	Not Interesting	無回答
5 (24名)	4 (8名)	3 (1名)	2	1	(1名)

Comments:

- ・大好き！茶道をもっと知りたい。
- ・素晴らしい体験。(2名)
- ・とても伝統的、茶道は複雑だが楽しかった。
- ・茶道は素晴らしかった。邦楽は素晴らしかったが、ちょっと眠かった。
- ・リラックス、楽しい。(3名)
- ・お茶は苦かったけど美味しかった。(2名)
- ・韓国のお茶文化と似ている。良かった。お抹茶が好きです。
- ・邦楽はエネルギーを感じた。お茶はしょっぱくなかった。
- ・邦楽もお茶も厳かな雰囲気だった。心穏やかになる方法を学びたい。
- ・邦楽は面白かったが、お茶は難しかった。
- ・邦楽の演奏者は礼儀正しかった。邦楽が本当に好きなんだと感じた。
- ・昼は疲れたが、素晴らしい体験だった。

- Lecture "Japanese Culture" by Associate Prof. Moreton

Very Interesting	-----	Average	-----	Not Interesting	無回答
5 (27名)	4 (4名)	3 (2名)	2	1	(1名)

Comments:

- ・表現力豊か！
- ・面白かった。(7名)
- ・とても面白く、素晴らしい授業だった。初めて知ったことが多かった。
- ・プロとしての素晴らしいアドバイスだった。
- ・先生、面白い、すばらしい。(7名)
- ・新しいことを沢山、学んだ。(2名)
- ・とても楽しくて面白かった。モートン先生が見せてくれたものは、全て覚えている。
- ・ちょっと退屈だった。
- ・面白くて日本の文化を理解しやすかった。(2名)
- ・先生、面白い。先生の講義が大好きだ。できるなら、先生の生徒になりたい。

Peer Learning Activities: Visiting Bunka-no-Mori Museum with Japanese Students

Very Interesting	-----	Average	-----	Not Interesting	無回答
5 (23名)	4 (5名)	3 (3名)	2 (1名)	1	(2名)

Comments:

- ・素晴らしい収集物だった。とても楽しかった。
- ・徳島の歴史を知るのに良かった。

- ・思ったよりも小さい博物館だった。(2名)
- ・面白かったが、コミュニケーションが欠如していた。他の人とほとんど話せず、寂しかった。
- ・長すぎて疲れた。
- ・生徒は親切で、徳島の歴史を知ることができた。
- ・1日の課外授業にしては、小規模すぎるが、勉強になった。
- ・博物館の内容を英語で伝えるのは、高校生には難しい。
- ・高校生と親しくなれる良い時間だった。(2名)
- ・高校生との時間がもっと必要。(2名)
- ・高校生がもっと英語を話せたら、もっと良くなると思う。
- ・この活動が一番好きだった。(2名)
- ・高校生は本当にフレンドリーで元気があり、素晴らしい時間を過ごせた。

- Tokushima Local Culture Experience: Indigo Dyeing, Ryozen-ji Temple, Otsuka Art Museum and Mt. Bizan

Very Interesting	-----	Average	-----	Not Interesting
5 (28名)	4 (6名)	3	2	1

Comments:

- ・とても良かった！(6名)
- ・藍染は楽しかったし、自分の好きな柄を染めれた点が良かった。霊山寺は自分の国と全く違っていた。
- ・美術館は素晴らしかった。(2名)(本物ではないけど)沢山の有名な絵画を見ることができたのは、初めてだった。
- ・眉山からの眺めは素晴らしかった。
- ・とても素晴らしかった。特に霊山寺と大塚美術館。建物と芸術、素晴らしかった。
- ・伝統的な藍染を学べた、素晴らしい。とても古いお寺で静かだった。美術館は本物のようだった。
- ・美術館が一番良かった。モナ・リザに触れるなんて信じられない！
- ・藍染、霊山寺：とても良かった。大塚美術館：とても良かったが、時間が足りなかった。眉山：徳島で最高の景観。
- ・全体の中で、美術館が一番良かった。
- ・良かったけど、外は暑すぎた。
- ・霊山寺では両親の健康を祈り、美術館では写真をたくさん撮った。
- ・美術がそんなに好きではないので、ちょっと退屈だったが、まあ良かった。

4) What do you think you learned the most through this summer school?

- ・日本文化、徳島の文化を知ることができた。(10名)
- ・新しい環境への溶け込み方、スピーキング力の改善と自信をつけられたこと。
- ・いろいろな国から来た人たちとの交流、友達になること、友情。(7名)
- ・日本人のホスピタリティー、世界中から来た学生とのつながり
- ・他の国の人々の習慣を学び、自分がどう動くか、皆のために何をすべきか学んだ。
- ・日本の、特に徳島の歴史と伝統
- ・他の人々との協調、多文化を学んだ。
- ・他国の文化
- ・様々な人たちとの協調 (2名)
- ・日本人は本当に親切で、自分もこうありたいと思った。
- ・日本人学生とのツアーが一番良かった！もっと日本人学生と交流したかった。
- ・他の国の文化や考え方を尊重するようになった。(2名)
- ・話すということは大切。日本はきれいで、人も良い。
- ・エチケット
- ・日本語 (3名)
- ・コミュニケーション能力
- ・英語力 (2名)

- ・外国人との日常会話
- ・日本人と話すこと

5) Please tell us what should be improved in this program.

- ・イベントの調整があまりできていなかった。
- ・ネイティブと外国人間のコミュニケーションの改善
- ・グループをバラバラにする必要はない。一緒に活動した方がよりこのプログラムを楽しめる。
- ・フリーランチがほしい。
- ・地元の学生との交流、プログラムの参加者同士の交流がもっとあれば良い。
- ・完璧なプログラムだが、学生（日本人、外国人とも）と親しくなる活動が少なかった。
- ・もっとレジャーを追加してほしい。
- ・大学からホテルまで、たくさん歩いた。徳島は暑すぎるのでバスかタクシーの送迎があれば、より良いと思った。（2名）
- ・みんな違う国から来ているので、全員、同じホテルに滞在した方が良い。交流できるから。（2名）
- ・お水を配り過ぎないで。重い。
- ・もっと長くしてほしい。
- ・グループメンバーを毎日かえたらいいと思う。
- ・言葉が違ふとコミュニケーションを取るの難しい。そのとき、どうすればいいのか分からない。
- ・美術館でもっと時間があつたらよかった。2時間では足りない。

6) Do you recommend your juniors to attend our summer school, if we hold it next year? (Please circle)

Very Much	-----	Average	-----	Not at all	無回答
5 (29 名)	4	3 (1 名)	2	1	(4 名)

7) Do you want to come back to TU for your study?

Very Much	-----	Average	-----	Not at all	無回答
5(13 名)	4 (5 名)	3 (9 名)	2 (1 名)	1 (2 名)	(4 名)

8) Overall, what do you think about this summer program?

- ・素晴らしかった。（6名）
- ・サマースクール大好きです！（2名）
- ・日本は美しい国で、魅力的な景色、人々は優しかった。このプログラムで、日本文化だけでなく、世界中から集まった学生たちと共に過ごすことができた。ありがとう。
- ・素晴らしい夏の課外活動だった。より多くを学び、知る機会を得た。
- ・このサマープログラムは良い。留学生は徳島大学だけでなく、徳島そのものを知ることができる。来年のサマープログラムがより良くなることを願う。
- ・見学、参加したかったこと：海、ケーブルカー、病院、医学部、ボートトリップ、ウェルカムパーティー
- ・徳島大学で勉強したい。みんな、歓迎してくれて温かく、助けてくれた。このプログラムは私たち全員にとって、多文化を体験する素晴らしい機会になったと思う。この素晴らしいプログラムを企画してくれた徳島大学に感謝。
- ・このプログラムで時間は貴重だと学んだ。参加者の皆と過ごした時間は楽しかった。プログラム参加者の学生とは二度と会うことはないかもしれない。だから、プログラムの一つ一つを大切にしたい。
- ・プログラムは本当に最高だった。先生方は本当に親切で、私達に楽しんでもらおうと最善を尽くしてくれた。感謝している。ただ、学生と親しくなる時間が少なかった。この素晴らしいプロ

グラムに呼んでいただいて、ありがとうございました。

- ・このプログラムは参加する価値がある。世界各国からの学生と友達になれた。お互いの文化や色々な事を話した。
- ・日本はとても親切な国だと思う。全ての先生方、学生、住民の皆さんはとても親切だった。このプログラムを通して、徳島が大好きになった。最高の夏休みの思い出になった。
- ・このプログラムをとても楽しみにしていたが、自分の予想以上だった！パーフェクトなプログラムだと思う。他の参加者とも仲良くなれたし、英語も上達した。サマースクールを忘れない。ありがとうございます。
- ・色々な国の学生と交流でき、素晴らしい経験になった。
- ・文化は国によって違うけれど、想い（愛）は同じ。サマースクールや友達のことを懐かしく思うだろう。
- ・先生方、素晴らしかった！ありがとうございました。
- ・参加する価値あり！
- ・本当に良かった！去りたくない。徳島にもっと滞在したかったし、徳島の学生と話したかった。いつか日本に帰ってきます！日本、大好き。ありがとうございました！
- ・先生も学生もみんな心優しくかった。ありがとうございました。
- ・自分の勉強のために良いと思う。多くの学生と出会い、友人もできた。忘れられない体験だった。
- ・良かった。多くの思い出ができた。色々なことを学び、得た。可愛くて熱心な学生に出会った。徳島の雰囲気が好きだ。

9) How did you think about “Awa Dance Festival”?

Very Good	-----	Average	-----	Not Good
5 (34 名)	4	3	2	1

- ・期待以上、完璧だった。
- ・阿波踊りは本当に明るい踊りだ。
- ・美しかった。
- ・とてもユニークで面白い。
- ・素晴らしい！日本文化の最高の体験だった。
- ・日本文化の象徴。
- ・素晴らしい。大きな感動を残してくれた。その雰囲気が私を人々と踊らせてくれた。
- ・たのしかった。
- ・最高。

10) Did you think observation of “Awa Dance Festival” should be a part of this Summer School?

Very Much	-----	Average	-----	Not at all
5 (33 名)	4 (1 名)	3	2	1

- ・もちろん。
- ・阿波踊りは素晴らしい。サマースクールのプログラムに取り入れるべき。もしなければ、寂しいと思う。

11) Write any comment about “Awa Dance Festival”.

- ・韓国では、日本のような祭りはないので、祭りを見られて、楽しかった。忘れられない。徳島が大好きです。
- ・素晴らしかった。だけど、時間が足りない。もっと時間が必要。
- ・阿波踊りはサマースクールのプログラムに必要。
- ・阿波踊りが2時間しかいられなかったのは、とても残念だった。音楽、雰囲気、食べ物、全てが

素晴らしかった。

特に、徳島は人のにおいがする。韓国には、こういった祭りがない。阿波踊りを観に徳島に帰ってくる。

- ・ すごく楽しい体験だった。今夜は今年一番の夜だった。ありがとうございました。
 - ・ 阿波踊りは、今までの祭りの中でベストだった。感動した！阿波踊りが大好き！また徳島に戻ってきたい。
 - ・ 踊り子達の表情がハッピーそうで、その表情が大好き。
 - ・ 今まで観た祭りの中で一番、面白かった。いつもテレビで日本のお祭りを観ていたが、今夜は体験することができた。たくさん、美味しい食べ物も食べれた。素晴らしい経験になった。
 - ・ 阿波踊りに参加した。一緒に楽しむことができた。阿波踊りは6時スタートなので、もっと時間が必要。
- 来年も阿波踊り見学は必要。
- ・ 祭り見学ができて良かった。次回は自分も一緒に踊ってみたい。
 - ・ 踊りは美しかったが、阿波踊りの空気感とリズムが一番、胸に迫った。
 - ・ 踊りも音楽も楽しかった、カラーも良かった。
 - ・ とても混雑していたが、面白かった。
 - ・ 踊りに参加したかったが、時間が足りなかった。もっと時間が必要。
 - ・ 阿波踊りは徳島の代名詞だ。誰でも楽しめるのが良い。踊りの才能がなくても問題なし。初心者のための連がある。
 - ・ 阿波踊りは今回の日本滞在で、最高の時間だった。祭りを十分に楽しむには時間が足りなかった。プログラムがもっと長かったら、阿波踊りを十分に楽しめたと思う。
 - ・ こんなに文化、踊り、空気感を身近に感じられたのは初めて。踊りやリズムは同じでも、一人一人に喜びを見ることができた。
 - ・ 踊りは素晴らしい。船も良かった。景色も良かった。
 - ・ 素晴らしい踊り。阿波踊りの雰囲気は素晴らしい。この祭りが大好き、また阿波踊りに来たい。
 - ・ 皆と一緒に踊りたいです。今度はチャンスをいただきたいです。
 - ・ 阿波踊りは美しい踊りだと思います。お祭りが始まる時、皆、全部、街で集まって歌を歌いながら踊ります。楽しい！
 - ・ 阿波踊りは素晴らしいと思います。日本の文化を体験することができますので、とても良かったと思います。
 - ・ 老いも若きも参加していた。
 - ・ あんなに多くの人が集まって歌い踊るなんて、すごいと思います。中国では想像もできない。

2.3.7 成果報告

2017年8月6日（日）から8月13日（日）にかけて、徳島大学国際センターはサマースクール「徳島であおう！」を開催した。このサマースクールは毎年継続的に行なわれており、今年度は6ヵ国（中国、韓国、モンゴル、インドネシア、ベトナム、アメリカ合衆国）からの学生33名、引率教員1名、日本人学生9名、本学留学中の外国人留学生1名、地域住民9名、高校生29名の合計82名が参加した。（台風で実施しなかったキャンパスツアー、日本語学習やオリエンテーション支援、合同交流会には21名の日本人学生が参加予定だった。）

【本サマースクールの趣旨・特徴】

昨年度同様、次のような目的でサマースクールを開催した。（1）参加する学生が、将来本学で交換留学生や正規留学生として学んでもらう。そのために（2）本学での学習や研究、ならびに徳島の文化について理解してもらう。また、（3）日本人学生、地域住民と交流することで、日本人と日本文化を理解してもらう。（4）様々な国からの参加学生がお互いに出会い知り合うことで、今後の国際化に向けた自らへ振り返りを促す。さらに、（5）サマースクールに参加した日本人学生、地域住民の国際・多文化理解を促進し、本学ならびに徳島地域のグローバル化を進める。

国際センターのサマースクールは将来本学の大学院に入学する留学生や交換留学生として本学で学ぶ学部学生をターゲットとしている。そのため、本サマースクールに参加した学生が学部や大学院に入学すること、そして「徳島にまた来たいと思う」気持ちを育むことを念頭にプログラムを企画・運営した。

国際センター主催のサマースクールの目指したものと内容は、次の4点である。

1. 徳島大学におけるアカデミックな活動に関する情報提供

国際センター教員による「徳島と徳島大学の紹介」、常三島・蔵本地区での「キャンパスツアー・研究室訪問」、教養教育院ディビット・モートン准教授による「徳島の遍路文化、藍染め」に関する講義を予定した。

「キャンパスツアー・研究室訪問」に関しては、参加者の専門に合った学部を訪問し、本学の最先端の研究を直接見聞きし、ユニークな研究や教育活動について知ることができように企画した。総合科学教育部、医科学教育部、先端技術科学教育部に分かれて行うことになっていた。

参加者が将来本学で学ぶためには、「何を学ぶことができるのか」といった学術分野に関する情報と「どの教員の研究室で学ぶことができるのか」といった研究分野や研究室に関する情報を得ることはとても重要であり、「徳島大学紹介」や「研究室訪問」でこれらの情報を具体的に提供できる。

加えて、日本人学生が中心となってキャンパスツアーを行うことで、参加者が本学学生と交流し、参加する日本人学生の国際化も進めることができると考えた。

ところが、本プログラムの中心の一つであるキャンパスツアー、および研究室訪問は台風接近のため、すべての企画が取りやめとなった。その後の日程を大きく変更することはできず、依頼した部局ではオープンキャンパスをするなどの予定もあり、今年度のプログラムでは研究室訪問が実施できなかった。

新しい試みとして、今年度のキャンパスツアーは本学日本人学生の国際化と積極性の向上を目指して、学生サポーターの募集や役割分担などを学生たちに委ねてみた。今後の国際関連の学生グループ・サークルの形成に向けての企画であったが、台風で実施できず、この点でも非常に残念であった。

キャンパスツアーのみ後日短縮した形で実施した。急遽学生サポーターを募り、7 人の本学学生が協力してくれた。一緒に学食で晩御飯を食べ、連絡先を交換するなどして、交流ができたようだった。

2. 徳島・日本文化、そして日本人を理解するための学びの機会の提供

今回のプログラムでは、地域や本学サークルの学生の協力による邦楽・茶道体験、藍染め体験、大塚製薬工場などの企業見学、徳島市での阿波踊り見学、地元高校生との美術館・博物館見学など、多様な文化理解と交流の機会を提供し、参加者には非常に好評だった。短いプログラムではあったが、本学学生、地域の人々や高校生と交流したりして、参加者は多くの時間「生の」日本人と接することができた。徳島や日本の文化を知っただけでなく、自分たちが実際に体験することで日本や徳島を知り、日本人の行動や感情を理解してもらうことができたと考えており、この点は高く評価できるだろう。

3. 日本人学生、地域住民、そして大学の国際化

日本人学生や地域の方々にとっても、本サマープログラムは有益なものであったと考える。特に、本学の日本人学生や地域の高校生にとっては、年齢の近い多くの外国人と接する機会は貴重で、彼らの国際理解や異文化理解をすすめることができた。

また、本学日本人学生や地域の方々は様々な活動を通して外国人の目線や考えを知ることでもできたであろう。本学の国際化に加えて、地域の国際化を支援することも本学の役割であり、本プログラムはこの点でも貢献できたと考える。

4. 世界的なネットワークの形成

プログラム参加者（海外からの学生と日本人学生、地域の人々）がお互いを知り、今後も連絡が取り合えるようなネットワークを形成する機会となった。

しかしながら、本年度は他部局のサマープログラムとの合同交流会が台風の影響で開催できず、例年のような大学・国を越えたネットワーク形成ができず、非常に残念であった。

3 総括

徳島大学においては、本年度は総合科学部サマープログラム、先端技術科学教育部サマースクール、及び国際センターサマースクールの3コースのサマープログラムを実施した。本学は、3コースのサマープログラムを実施するようになってから6年目になるが、各コースのプログラム実施時期は全学の委員会である「サマープログラム等実施委員会」において検討し、昨年度と同様、全プログラムの中心となる時期を7月下旬-8月初旬に合わせた。3コースの出席者全員が参加できる「合同交流会」を8月7日に計画していたが、台風接近のために開催はできなかった。3コースのプログラム全体を合わせて海外の協定校等から合計66人の学生と引率教員が本学を訪れた。本学からも約90人の学生がサマープログラムに参加し、訪問学生らと交流を行った。

総合科学部サマープログラムと国際センターサマースクールは学部学生を対象とし、先端技術科学教育部サマースクールは学部高学年または大学院生を対象としたプログラムを提供している。それぞれのプログラムの中で実施される英語による授業や研究室訪問、キャンパスツアー等により海外からの学生は徳島大学を知ると共に茶道や和楽器、藍染めなどの日本文化を体験することができた。また、県内企業訪問や文化体験等を通じて日本の伝統文化や徳島を知ることができた。海外から参加した学生は徳島や日本に対する理解を深め、徳島や日本を身近に感じることもできたものと思われる。一方、本学から参加した日本人学生にとっては海外に関心を持つ良い機会となり、グローバル化の推進にも一定の効果があつたものと推測している。さらに、サマープログラムの学生募集を通じ、徳島大学を海外にアピールすることができた。

海外から参加した学生の中には、本学への留学を希望している学生もいた。このプログラムの狙いは海外からの参加学生が徳島を体験し、将来、本学への本格的長期留学に繋げることにある。巻頭言にも記載した通り、本学のサマープログラム・サマースクールは先発部局で10年、後発部局でも6年になる。しかし、プログラムの効果の定量的検証はこれまでなされていない。これまでもサマープログラムへの参加をきっかけに本学への留学を決定した学生がおり、一部、優秀な留学生の確保につながっている。アンケート等を実施し、これまでの成果を検証するとともに、より効果的な企画を策定する必要がある、また、その時期に来ていると思われる。

なお、海外からの参加者からは、これら3つのサマープログラムについて、高い評価を得ており、次年度も引き続き実施する予定である。

4 今後の課題とまとめ

【サマースクール全体としての今後の課題】

- ① 大学全体の取組みとして、統一性のあるコース設計
- ② 交流行事等のイベントの合同実施
- ③ 期間や規模等、サマープログラムの定義の明確化
- ④ 担当教員、事務職員の業務量の軽減
- ⑤ 関係部局からの経費、業務の支援
- ⑥ 参加者受入れ国の拡大
- ⑦ 参加者が滞在する快適な宿舎の確保
- ⑧ 天候不順の際の対応、代替案の準備

【総合科学部サマープログラム】

総合科学コース

- ・宿泊先の安定的な確保 → （全般的に）事務の支援をお願いしたい。
- ・移動手段の確保 → 徳島では公共交通機関での移動に限界(無理)がある。
- ・この研修を体験した本学学生の多くが、春季研修にて台湾を訪れる。相互互惠の精神に基づく国際交流が実現できているので、今後も続けていきたい。
- ・育達側からは、多くの学生が参加を希望している。国際センターのプログラムと合わせて、今後とも多くの希望者を受け入れたい。
- ・研修の実施にあたっては、大学から多額の補助を受けるとともに、事務方の関係各所には、多大なる支援をいただきました。この場を借りまして御礼申し上げますとともに、次年度以降もご協力のほどよろしくお願いいたします。

教養教育コース

（１）実施体制

当初は少人数の教員で実施してきたサマースクールであるが、今年度は授業担当教員が 11 名であり、授業、実習、生活全般などの面で関わるのが可能となった。平成 28 年度に改組が行われ、現在の協力教員・授業担当教員が 3 学部と教養教育院の 4 部局に分散した。これまでの連携を今後も継続し、コース間の協力を密に行うことが重要であろう。

（２）協定・MOU に関して

MOU の有効期限は 5 年となっていて、2018 年以降に改訂の必要がある。学生の参加・受講体制を確立するためにも学生交流協定を結ぶ必要がある。

（３）初級の日本語授業について

今回、日本語の授業を設けたが、留学生の日本語のレベルは多様であり、単一の授業ではカバーできないものとなった。個々のコースごとに準備するだけでなく、徳島大学サマープログラム全体で提供される授業を提案していく必要がある。

（４） 本学に在籍する学生について

授業やエクスカージョンに参加した本学に在籍する学生の満足度は非常に高い。しかしながら、参加者数がそれほど多くない。これは在籍学生の参加者は共通教育を受講する 1 年生が多く、サマープログラムの開催時期と、試験期間が重なることが敬遠の要因である。より多くの在籍学生の参加を促すための工夫が今後の課題である。

【先端技術科学教育部サマースクール】

JASSO 留学生交流支援制度短期研修・研究型プログラムが採択され、参加学生に対して渡航費・滞在費等の支援を行った 2015 年度は、海外から約 50 名の参加があった。一方、プログラムが採択されなかった昨年度および本年度の海外からの参加者はそれぞれ 28 名、および 17 名と減少した。サマースクールは夏休みの期間に開講され、航空運賃が 1 年の中で最も高い時期である。海外からの参加者は、主に中国、台湾、マレーシア、インド等発展途上の国からであり、そのほとんどが私費で参加している。本年度は、本プログラムの学長裁量経費の一部を参加者の渡航費・滞在費等の支援に用いることができたが、今後も参加学生への支援が必要であり、そのための安定した予算確保が求められる。

先端技術科学教育部サマースクールの参加学生は、全員が大学院生であり、それぞれが母校において専門分野の研究を行っている。そこで昨年度に引き続いて、本年度も、参加学生が行っている研究または興味を持っている内容の発表を行う Student Presentation セクションを設けた。発表内容は多岐にわたっていたが、ナノテクノロジーコースと環境保全コースを併せた会場と電子工学・情報科学コースの会場の二箇所に分かれ、1 件当たり発表：5 分、質疑応答：2 分で行った。今回も活発な発表並びに質疑応答が繰り広げられ、お互いの専門に関する理解は深まったが、参加学生間では、研究内容のオーバーラップが少なく、セクション後も継続的な意見交換等を行った学生は決して多くはなかった。本学においても関連する研究を行っている学生もいると思われるが、実施時期が前期授業の試験期間であったこともあり、在校生の受講者数は 43 名と少なかったことも一因である。サマースクール開催時期を前期授業期間と重ならないようにすることは日程的に困難であるが、在校生との交流に有用な Student Presentation セクション等のイベントはスケジュール調整を行うと共に、受講生に限定しないオープンなイベントとして広く周知する等の工夫が必要と考える。また、今年度は、4 日目の 8 月 3 日に海外からの参加者に対して個別の研究室インターンシップを実施した。参加申込時に記載のあった「希望する研究室」または「当人の研究内容」等の情報をもとに、関連する各系・コースの国際連携教育開発センターの運営委員を通してインターンシップ先の選定を行い、いずれの学生も関連する研究室においてインターンシップを実施することができた。マッチングを行った研究室におけるインターンシップ体験であったことから、参加者からの評価が非常に高かった（アンケート結果より）。当初はインターンシップを全日行うスケジュールを計画していたが、他のイベントとの関係で午後のみのイベントとなった。また、受け入れ先への負担も考え、担当教員には 1 時間程度の対応でも良いとの連絡を行っていたが、1 時間教員が対応した後、学生が対応するケースが多く、また、複数の教員の研究室をリレーする場合もあったよ

うだ。本イベントは、海外からのサマースクール参加者が共通点を多く有する在校生と出会う機会になっていることから、終了後も交流を継続している学生も多くいた。本年の参加者の中には本年度の秋から DD コース学生として博士前期課程に進学した学生もあり、多くの留学生にとって文化の異なる徳島（日本）における日常および教育環境に加えて、研究環境・生活に関するイメージを取得する良い機会となったと思われる。また、在校生にとっても英語で研究内容の説明を行うのに加え、海外の大学の日常・教育・研究環境に関する生きた情報を得る絶好の機会となっていることから、今後は在校生の国際会議発表、更には海外留学へのモチベーションアップに繋がることを期待している。

最後に、サマースクールの実施体制について述べる。これまでは、サマースクールに積極的に協力頂ける学科（専攻）がある反面、協力を仰ぐのが難しい学科（専攻）も存在すると述べてきたが、インターンシップの実施も加えると、一部の領域にとどまることなく全学科（専攻）の協力を得た。また、今年度はナノテクノロジーコース、電気エネルギー・情報工学コースに加えて環境保全コースの開講も行った。今後もより広い専門分野の海外学生が参加できるサマースクールの開講が実施できる体制の構築が必要である。そして徳島大学で実施されるサマースクール申込窓口の統一や日本文化体験等、他のサマースクールとの共通部分は国際センターが担当する等、これまで以上にサマースクール運営業務の効率化を図るべきだと考える。

【国際センターサマースクール】

1. 日程・期間・運営等の課題

今年度は例年より日程を短くしたため、県庁・県議会訪問などを取りやめた。加えて、台風による計画変更があり、中心的な活動である研究室訪問が実施できなかった。開講式、キャンパスツアー、見学旅行などを柔軟に変更して実施したものの、参加者、日本人学生、および運営サイドには不満の残るものとなった。天候による変更はどうしてもないものではあるが、対応の仕方をもう少し事前に考慮する必要があるだろう。

例年どおり、徳島で本場の阿波踊りを体験してほしいと考え、日程を8月12日までにしたが、この日は徳島で宿泊ができないため、夜、バスで京都へ移動し翌日京都見学を希望者のみ対象に行った。阿波踊りに関しては、100%の学生が「よかった」と回答していることから、今後も阿波踊りを鑑賞できる日程で行っていきたい。

京都見学については、16名の参加となった。プログラム参加者の中には既に京都を見学している人がいること、参加者自身が自由に旅行したいという希望があることなどで、予定していたより少ない参加者数であった。京都見学は参加者にとって魅力的だと考えたが、あまり効果的ではなかったかもしれない。阿波踊り期間のホテル確保の目的であれば、昨年同様、神戸（あるいは大阪）で十分であろう。

予算の都合上、今年度も参加費を徴収した。運営費の中でも宿泊費が多く、割合を占めており、プログラム実施期間を短縮したが、今後も予算と参加費、支出をよく検討し、ふさわしい期間と内容を考えていきたい。

今年度は事前キャンセルが多く、連絡なく開始時に来日しなかった学生もあり、宿泊人数の変更などの対応に迫られた。キャンセルについては、募集時により明確に言及し、応募大学サイドに対しても適切な指導をお願いするようにしていきたい。

これまでと同様、ホテルに関してはいくつかの問題が生じた。午後 10 時に玄関が施錠されるために鍵を持って出かけるということになっていたが（学生には 10 時前にできるだけホテルに戻るよう指導した）、鍵を持たずに出かけて時間までに戻らず、ホテル従業員との間で問題が生じた。ホテル利用について、より時間をかけた事前指導が必要であると思われる。

現在利用しているホテルについては、宿泊費が安いという利点があるが、従業員の対応、ホテルの質、大学常三島キャンパスからの距離も考え、予算を考慮しながら今後も継続して利用するかを検討したい。

年々、自分のスマートフォン・タブレットを持参し日本でのネットワークに接続する参加学生が増えている。今年度は参加学生とのやりとりを LINE で行ったため、ホテルでのトラブルなどの際に連絡がスムーズにできた。今後とも、LINE や Facebook などの活用を積極的にしていきたい。

また、それらを活用したプログラム終了後の情報提供も考えていきたい。

2. プログラムの内容の充実と改善

総合科学部や先端技術科学教育部のサマープログラムとは異なり、国際センターのサマースクールは学生の専門の学習を提供することはせず、徳島大学の紹介、徳島・日本の文化理解や日本人学生・地域の人々との交流のための活動を行い、概ね好評であった。

参加学生のアンケートでは、専門の授業や日本語学習の時間を増やしてほしいという声もあるが、参加者の専門が多様であり、日本語のレベルも個人によって大きく異なるため、現状のプログラムの内容を大きく変更することはできない（今年度は、台風により計画していた日本語学習の時間も取れなかった）。今後は総合科学部、先端技術科学教育部のサマープログラムとの連携も考慮していく必要があるので、日本語学習、企業見学など、合同交流会以外に共通で行うことができる内容とその実施も考えていかなければならないだろう。

プログラム最終日には、グループに分かれてプログラムを振り返り、自分たちが得たことを共有するワークショップを行った。今回は修了式の前に、日本人学生や運営サイドの教職員も聴衆となり、各グループの振り返り発表を聞いた。予定より長いものになったが、時間配分ややり方など来年度に向けて検討が必要である。

昨年度のプログラムでは参加者の中に英語でのコミュニケーションが十分にできない学生もあり、英語・日本語での指示が伝わっていないと思われる場面が多くみられた。今年度は英語・日本語でのコミュニケーションができないという状況はなかった。

これまで配付していたプログラム冊子を改定し、英語と日本語を併記するものにした。不必要な情報を省き、かなり見やすいものになり、参加者への適切な情報提供ができたと考えている。

参加学生からはもっと参加者同士の交流をしたかった、という声があった。ホテルの割り振り、毎日の活動のグルーピングも今後検討すべきだろう。

5 担当者一覧

サマープログラム等実施委員会実施委員長

金 成海：教授・国際センター長

サマープログラム等実施委員会実施委員

田久保 浩：教授（総合科学部）

勢井 宏義：教授（医学部）

松香 芳三：教授（歯学部）

山崎 哲男：教授（薬学部）

安澤 幹人：教授（理工学部）

音井 威重：教授（生物資源産業学部）

橋本 智：教授（国際センター）

総合科学部サマースクールプログラム

田久保 浩：教授（大学院社会産業理工学研究部）

村上 敬一：教授（大学院社会産業理工学研究部）

佐藤 高則：准教授（大学院社会産業理工学研究部）

山城 考：准教授（大学院社会産業理工学研究部）

吉岡 宏祐：准教授（大学院社会産業理工学研究部）

大橋 眞：教授（教養教育院）

齊藤 隆仁：教授（教養教育院）

渡部 稔：教授（教養教育院）

南川 慶二：教授（教養教育院）

モートン常慈：准教授（教養教育院）

北岡 和義：講師（教養教育院）

先端技術科学教育部サマースクール

森賀 俊広：教授（大学院社会産業理工学研究部）

安澤 幹人：教授（大学院社会産業理工学研究部）

呉 雨濃：助教（大学院先端技術科学教育部国際連携教育開発センター）

浅田 沢：大学院先端技術科学教育部国際連携教育開発センター

国際センターサマースクール「徳島であおう！」

金 成海：教授・国際センター長

Gehrtz 三隅友子：教授（国際センター）

橋本 智：教授（国際センター）

内藤 毅：特任教授（国際センター）

TRAN HOANG NAM：講師（国際センター）

福岡 佑子：特任助教（国際センター）

事務局

小林 秀樹：国際課長

大田 朋哉：国際課副課長

松尾麻里子：国際課国際交流係長

大塚 綾子：国際課国際交流係事務補佐員

サマースクールTシャツ

2012 年、第一回国際センターサマースクール「徳島であおう！」の開催に際し、参加者や日本人学生サポーター、教職員の一体感を高め、互いに協力して国際交流を推進することを目的に青色の T シャツを作製した。キャッチフレーズ「徳島であおう」は、①徳大生も含めた徳島の人にあう、②参加した各国の仲間にあう、③自分を見つめ直して新しい自分にあう、の意味が込められている。この T シャツのバックの文字は国際センターの地域サポーターでもある書道家の作で、以後、毎年国際センターサマースクールで使用されていたが、2015 年からは、各コース色違いの T シャツを作製することとなった。

参加者の良き思い出になると同時に、帰国後にもこの T シャツを手にとって徳島大学への関心を深めてくれることが期待される。



バックの文字「徳島であおう」は書道家の吉野美苑（吉野美保）氏（「美苑書の会」主催者）による作

徳島大学サマープログラム 2017 報告書

編集発行： 徳島大学サマープログラム等実施委員会

徳島市南常三島町 1 丁目 1 番地

088-656-7079

発行年月日： 2018 年 3 月 31 日